



National
Parks
of Japan



国立公園で目指す上質なツーリズム

環境省自然環境局国立公園課国立公園利用推進室

室長 岡野隆宏



今日のお話

- 国立公園とは
- 国立公園満喫プロジェクトの取組
- ストーリーとインタープリテーション
- 国立公園のブランドプロミス
- 民間提案を取り入れた国立公園の面的な魅力向上に向けて



National
Parks
of Japan





日本の国立公園

～流氷からサンゴ礁まで様々な風景が広がる日本の国立公園～



日本の国立公園(全国で34)

National
Parks
of Japan



- | | | | |
|----|----------|----|--------|
| 1 | 利尻礼文サロベツ | 18 | 白山 |
| 2 | 知床 | 19 | 南アルプス |
| 3 | 阿寒摩周 | 20 | 伊勢志摩 |
| 4 | 釧路湿原 | 21 | 吉野熊野 |
| 5 | 大雪山 | 22 | 山陰海岸 |
| 6 | 支笏洞爺 | 23 | 瀬戸内海 |
| 7 | 十和田八幡平 | 24 | 大山隠岐 |
| 8 | 三陸復興 | 25 | 足摺宇和海 |
| 9 | 磐梯朝日 | 26 | 西海 |
| 10 | 日光 | 27 | 雲仙天草 |
| 11 | 尾瀬 | 28 | 阿蘇くじゅう |
| 12 | 上信越高原 | 29 | 霧島錦江湾 |
| 13 | 妙高戸隠連山 | 30 | 屋久島 |
| 14 | 秩父多摩甲斐 | 31 | 奄美群島 |
| 15 | 小笠原 | 32 | やんばる |
| 16 | 富士箱根伊豆 | 33 | 慶良間諸島 |
| 17 | 中部山岳 | 34 | 西表石垣 |

圧倒的に 美しい自然

- 日本を代表する優れた自然の風景を将来に引き継ぐ
- 生物多様性の確保

• 保護





最高の自然体験 フィールド

- 登山道、キャンプ場、展望台、駐車場の整備
- 国立公園の自然と文化に関する施設の紹介
- 園を訪れる際の整備

• 利用





自然公園法の目的

- 優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図り、もって国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与する。

自然の風景地

優れた自然の風景地
(多様な生態系を包含)

優れた自然
(生態系、希少種・・・)

保護と利用





国立公園満喫プロジェクト

「明日の日本を支える観光ビジョン（2016年3月）」の柱の一つに国立公園が位置づけられる
2016年～ 国立公園満喫プロジェクト開始
【訪日外国人の国立公園利用者数】 490万人（2015年） →667万人（2019年）

国立公園の保護と利用の好循環により、 優れた自然を守り地域活性化を図る

- ◆ 日本の国立公園のブランド力を高め、国内外の誘客を促進。利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし、**自然を満喫できる上質なツーリズム**を実現。
- ◆ 地域の様々な主体が協働し、地域の経済社会を活性化させ、自然環境の保全へ再投資される好循環を生み出す。



国立公園の優れた
自然環境

最大の魅力は
自然そのもの

保護

利用

地域資源として
自然の価値向上

地域の産業の活性化
地域の持続的な発展



国立公園満喫プロジェクト

国立公園の磨き上げ

- ・ 景観改善／廃屋撤去★
- ・ 多言語解説★／Wi-Fi設置
- ・ ビジターセンター等の再整備
- ・ 案内機能強化★
- ・ 公共施設へのカフェ等導入
- ・ 自然体験コンテンツの充実★
(野生動物、グランピング、ナイトタイム等)
- ・ 多様な宿泊サービス
- ・ 利用者負担による保全のしくみづくり

国内外へのプロモーション

- ・ 日本政府観光局サイト内
国立公園一括情報サイト★
- ・ SNSや海外メディアの活用★
- ・ 旅行博・商談会の参加
- ・ 公式パートナー等民間企業との連携

★：国際観光旅客税関連（2019～）



新型コロナウイルスによる観光地への影響
新たなライフスタイル転換

2021年以降プロジェクトを継続し、国内外の利用者復活を目指す
(国内誘客の強化、ワーケーション等の新たな利用推進、34公園への展開、脱炭素化など)



阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025 概要

基本方針

- ・ 持続可能な観光地づくりを推進
- ・ 保護と利用の好循環を実現
- ・ 自然との共生の文化を世界に発信



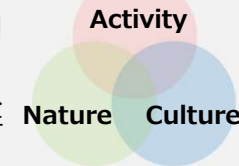
ターゲット

- ・ 欧米豪を中心に市場規模が拡大しているアドベンチャートラベルを主要なターゲットとする
- ・ 2021年に開催予定のATWSを契機として、北海道を世界に発信
- ・ 国内旅行の誘客も推進



アドベンチャートラベル (AT)

アクティビティ、自然、異文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行



目標

- ・ 訪日外国人利用者数 **31万人** (2020目標) の早期達成
- ・ 国内宿泊者数 **80万人** の維持
- ・ 連泊利用者、リピーターの増加
- ・ 繁閑差の解消

重点的な取組

道東AT推進

- ・ 知床、釧路湿原との連携等、道東におけるATを満喫するための入口としての機能を強化



利用拠点再生

- ・ 廃屋撤去、無電柱化の推進等により、引き算の景観改善を推進し、民間投資を促進
- ・ 公共施設の民間開放によるサービス向上



トレイルネットワーク

- ・ トレイル整備及び移動しながら楽しめるアクティビティの充実により、長期滞在の旅行を推進



利用者目線での改善

- ・ 多言語化、動線の明確化、デザイン統一など、基本的な施設の利用者目線での改善に引き続き対応



新たな利活用

- ・ 保全を前提としつつ、新たな自然資源の利活用を積極的に推進

持続可能な観光

- ・ 脱炭素、プラスチックゴミ削減も含め、持続可能な観光地づくりを推進

ポストコロナ

- ・ ワークーション等、ポストコロナ時代の新たな利用形態に対応

各団体の主な取り組み

■ BA-6 アドベンチャートラベル推進

令和3年9月20日（月）～24（金）※阿寒DMO等～オンライン参加
【アドベンチャートラベル・ワールドミット(ATWS)2021北海道】バーチャル開催
 （北海道運輸局、北海道経済産業局、北海道）
 ・ATツアー磨き上げ（北海道運輸局、北海道）・ガイド研修（北海道）
 ・AT事業者広域連携・販路拡大支援、AT旅行会社（北海道運輸局）

■ NP-3 脱炭素化

・ゼロカーボンパーク登録

主な国立公園利用施設において2025年までにRE100の実現を目指す
 （環境省、釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町）

■ AK-2、AK-3、AK-7 阿寒湖温泉

・ロストカムイ、カムイルミナ実施
 ・アイスアートギャラリー本格オープン（2021年6月）
 ・チュウルイ島ツアー実施（2021年10月から）
 ・E-BIKE～旅行商品の開発（阿寒観光協会まちづくり推進機構）
 ■カムイルミナ
 生態系影響調査実施（環境省）
 ■AK-8
阿寒湖まりむ館（観光案内所）
 ・外国語対応スタッフ配置（釧路市）

■ ON-1 オンネトー

・新休憩舎【UPIオンネトー】



2022年6月オープン（足寄町）

■ KU-2

屈斜路カルデラ外輪山トレイル （美幌峠・津別峠・藻琴山）

・コース整備、モニターツアー実施



（美幌地区3町広域観光協議会）

■ BA-3 3空港を繋ぐトレイル推進

・非動力ATツアー対応に向けたガイドライン作成・セミナー開催（運輸局）

■ KU-1（弟子屈町）

屈斜路湖の新たな活用
 ・屈斜路湖、釧路川源流域利用実態調査実施

■ KU-1

屈斜路湖 動力船規制

2021年10月開始（環境省）



■ AK-5 滝口自然探勝路

・2022年6月全区間開通（環境省）



■ AK-4 阿寒湖畔EMC

・2022年1月展示改修完了（環境省）

■ BA-4 阿寒摩周国立公園インナーブランディングの推進

・「自然の郷ものがたり」第2号発行
 ～旧阿寒町、弟子屈町の全戸に配布（環境省）

■ KA-5 摩周・屈斜路トレイル

・新規ルート検証、トレイル道標設置（弟子屈町）

■ KA-6 持続可能な観光地域づくり

・観光振興計画策定
 ・日本「持続可能な観光」地域協議会への参画（弟子屈町）

■ KA-7 川湯温泉川の魅力向上

・遊歩道の延長・整備
 ・川床清掃、ライトアップ、環境改善（弟子屈町、川湯地域運営協会）

■ KA-7 川湯の森ナイトミュージアム

・硫黄山ライトアップ、図鑑の森、森のマルシェ開催（環境省、摩周湖観光協会）

■ KA-1 川湯温泉街（廃屋撤去）

・2棟目（川湯プリンス）
 2022年3月～撤去完了

・3棟目（御園ホテル）
 2022年4月弟子屈町取得
 2023年撤去予定

・4棟目（川湯グランドホテル）
 2022年2月弟子屈町取得
 2023年撤去予定



（川湯プリンス）（御園ホテル）（川湯グランド）
 （環境省、弟子屈町）

■ KA-1

川湯温泉街DIY （摩周湖観光協会）



■ KA-2

川湯EMCインバウンド対応強化
 2022年4月ビジターセンターに
 名称変更（環境省）

■ MA-3 裏摩周-神の子池 トレイル、プログラム開発

・ルート調査、看板整備 他
 （きよさと観光協会、清里町）

■ MA-1 裏摩周園地

2021年7月
 裏摩周
 展望台リニューアル（環境省）



■ MA-5 摩周湖外輪山

・西別岳登山道再整備設計完了（環境省）

■ BA-6 アドベンチャートラベルの推進

・道東のAT向け自然ガイドブック
 「Wild Hokkaido」発行（環境省）



川湯温泉の再生

■ 廃屋の撤去 ■

- ① H30～R1 華の湯ホテル解体(環)
 - ② R2～R4 川湯プリンスホテル解体(環)
- まとまったスペース確保

- ③ R4 御園ホテルの一部解体(環)
 - ④ R5予定 御園ホテル解体(環)
 - ⑤ R5予定 川湯グランドホテル解体(町)
- まとまったスペース確保

湖山荘解体(町)

■ 廃屋撤去跡地での宿舎事業者の公募 ■

環境省が環境省所管地と町有地を合わせた土地
15,839.17㎡で宿舎事業者を公募

令和3年度
5/14・27 サウンディングの実施

令和4年度
9/6 公募開始
10/28 入札・落札者決定。星野リゾートが落札

令和5年
2/13 星野リゾート、弟子屈町と釧路自然環境事務所の3者で事業実施協定締結

■ マスタープラン(MP)の策定 ■

令和4年度
弟子屈町が「国立公園利用拠点等滞在環境上質化事業」により、川湯温泉再整備のマスタープランを作成。

>コンセプト 「湯の川がつむぐカルデアの森の温泉街」

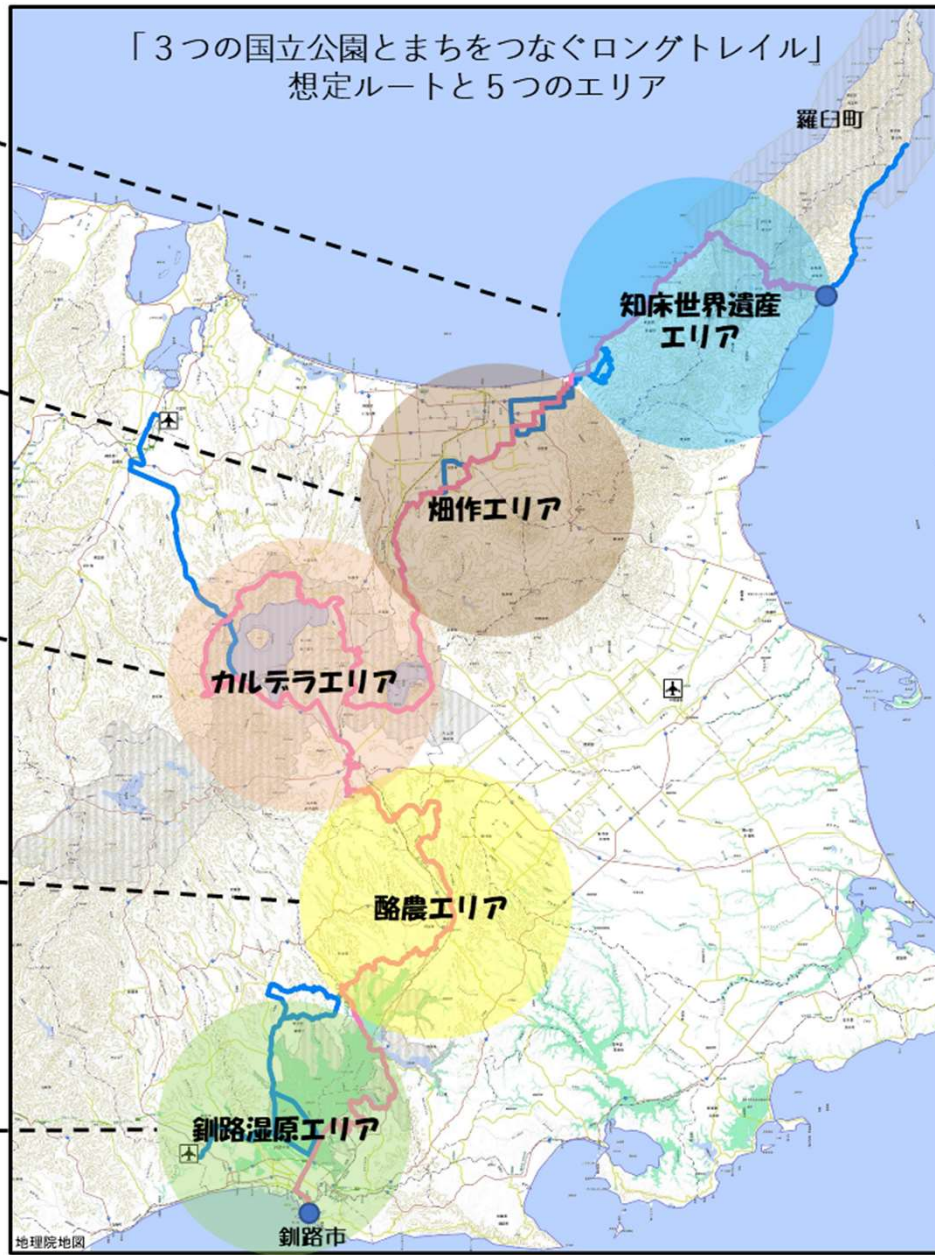
>まちづくりの方向性

- ・川湯温泉の特長を際立たせる ~湯の川中心の街、自然と賑わいが一体の街
- ・適切なスケールの街づくり ~ふさわしい規模へ、上質な景観づくり
- ・訪れる目的を増やす ~新たな目的作り、通年集客、滞在時間の延長化

令和5年度(計画)

- ・MP推進体制の構築、まちづくり会社設立検討、進出企業調査 等





国立公園満喫プロジェクト

● 公共展望台・ビジターセンターへの民間カフェの導入



【伊勢志摩】 英虞湾を一望する展望台と民間の横山天空カフェテラス、横山地域の利用者数65%増加、滞在時間が増加

● 公共キャンプ場の運営に民間ノウハウの活用



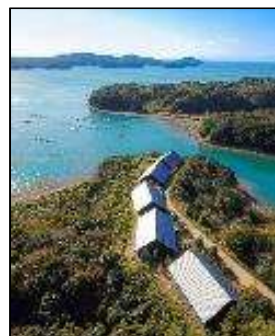
【阿寒摩周】 環境省、北海道、弟子屈町で連携協定を締結
2020年度より弟子屈町内の公設野営場を民間事業者により一括運営

● 廃屋撤去と民間事業者の跡地活用



【大山隠岐】 大山町により廃屋を撤去。新たにカフェや土産物の販売「大山参道市場」を整備

● 新基準導入による分譲型ホテル認可／上質な宿泊施設



アマナム(伊勢志摩)



ザ・リッツ・カールトン日光

国立公園満喫プロジェクト

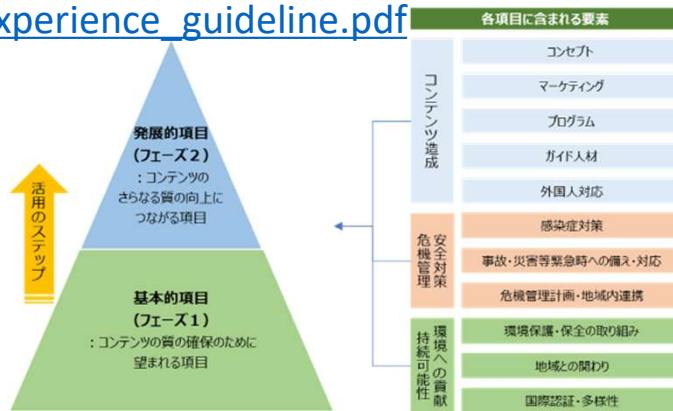
●コンテンツガイドラインに沿ったコンテンツの造成

【中部山岳】高山帯の希少種であるライチョウの観察ルールハンドブックを作成。地元の山岳ガイドがハンドブックを活用してツアーを造成。保護と利用の好循環の仕組みづくりを行政、専門家、観光事業者が連携。



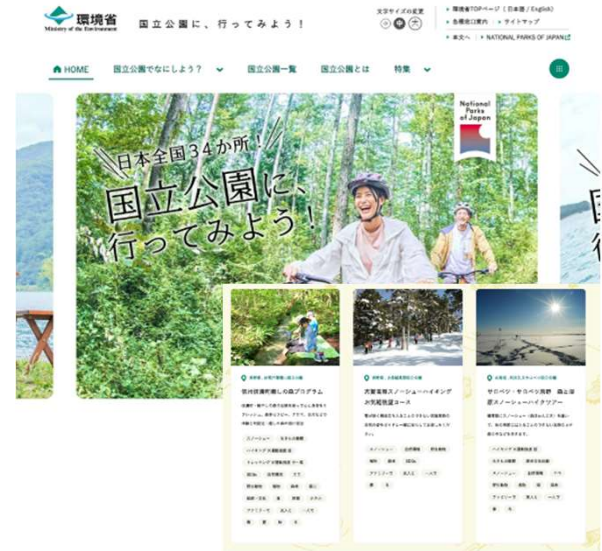
国立公園における自然体験コンテンツガイドライン

https://www.env.go.jp/nature/mankitsu-project/pdf/experience_guideline.pdf



●国内向け「国立公園に、行ってみよう！」サイト

- ・コンテンツガイドラインに沿ったコンテンツ
→やりたいことから探せる
- ・各公園のストーリーを軸にしたモデルコース
- ・長距離自然歩道



●JNTOサイト内国立公園一括情報サイト

- ・レンジャーインタビュー動画
- ・高付加価値な自然体験コンテンツ
- ・各公園のストーリーを軸にしたモデルコース
- ・360°動画コンテンツ



国立公園満喫プロジェクト

● 立入制限と認定ガイドによるエコツアーの実施

【アトサヌプリ（阿寒摩周）】

硫黄山（アトサヌプリ）を立入制限区域に指定し、人数制限を導入
制限区域に立ち入ることのできる認定ガイド制度を創設
ツアー参加費の一部を自然保護に充当する仕組みを整備

（参加料金 1名様9,900円（税込）うち600円が寄付として町に収められる）

※エコツーリズム全体構想に基づく仕組み



硫黄山の噴気孔



ツアー実施状況



立ち入り制限区域

第18回エコツーリズム大賞 大賞受賞！



国立公園満喫プロジェクト

●官民連携（オフィシャルパートナーとの連携）



- 国立公園の美しい景観と、国立公園に滞在する魅力を世界に向けて発信し、国内外からの国立公園利用者の拡大を図ることで、人々の自然環境の保全への理解を深めるとともに、国立公園の所在する地域の活性化につなげるための環境省と民間企業のパートナーシッププログラム
- 2023年3月末で**130社**。

National
Parks
of Japan

Inspiring All People to Connect
with and Protect Wilderness

自然を楽しむ、
自然を守る。
自然、文化、歴史、人々
その全てが交わる場所へ。



株式会社ゴールドウイン

「National Parks of Japan」プロジェクト

- 年度毎にエリアを定め（2023年度は北海道）連動した活動を実施
- アパレル商品展開（売上の一部寄付予定）
- サイト上での取材記事紹介
- オリジナル旅行商品

三条印刷株式会社

「OZE BOARDWALK Project」

- 尾瀬国立公園に敷設された木道を再利用した「尾瀬の木道ペーパー」を販売、売上の6%相当額を寄付
- 加えて、歩荷・山小屋・シカといった地域の課題をYouTube動画で発信中

自然公園法の一部を改正する法律案の概要

国立公園等において、「保護と利用の好循環」を実現し、地域の活性化にも寄与。



地域の魅力を活かした自然体験活動を
促進する自然体験活動促進計画制度を創設

協議会が作成した計画が認定されると許可不要などの特例を受けられる仕組みにより、地域主体の自然体験アクティビティを促進

- 市町村やガイド事業者等から成る協議会が自然体験活動促進計画を作成し、環境大臣(知事)の認定を受けた場合、関係する許可を不要とする等の特例により、手続を簡素化します。
- これにより、地域関係者が一体となって行う、魅力的な自然体験アクティビティの開発・提供、ルール化などが進められ、長期滞在につながる国立公園の楽しみ方の充実が図られます。



魅力的な滞在環境を整備する
利用拠点整備改善計画制度を創設

協議会が作成した計画が認定されると認可手続などの特例を受けられる仕組みにより、地域主体の利用拠点の改善を促進

- 市町村や旅館事業者等から成る協議会が利用拠点整備改善計画を作成し、環境大臣(知事)の認定を受けた場合、関係する認可を受けたこととする等の特例により、手続を簡素化します。
- これにより、地域関係者が一体となって行う、廃屋撤去や拠点の機能の充実、景観デザインの統一など、自然と調和した街並みづくりが促進され、魅力的な滞在環境の整備が進みます。



公園の保護と適正利用のために
餌付けへの規制や違反行為への罰則を強化

クマの餌付けへの規制や違法伐採などの違反行為への罰則強化により
国立公園等の保護と適正な利用を確保

- 野生動物への餌付けなどの行為に対する規制や、国立公園等における違法伐採などの禁止行為の違反に対する罰則の引上げを行います。
- これにより、野生動物による人的・物的被害の発生の防止や、禁止行為への厳しい対処が可能となり、多くの方々を楽しめる豊かな自然環境の確保が一層図られます。



- 日本の国立公園は自然の豊かさだけでなく、**人の暮らしが息づく場としての価値**がある
- 多様な自然を背景として長い間積み上げられてきた**地域独自の文化や歴史が魅力**

提供価値

多様な自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる。



ブランドメッセージ

その自然には、物語がある。



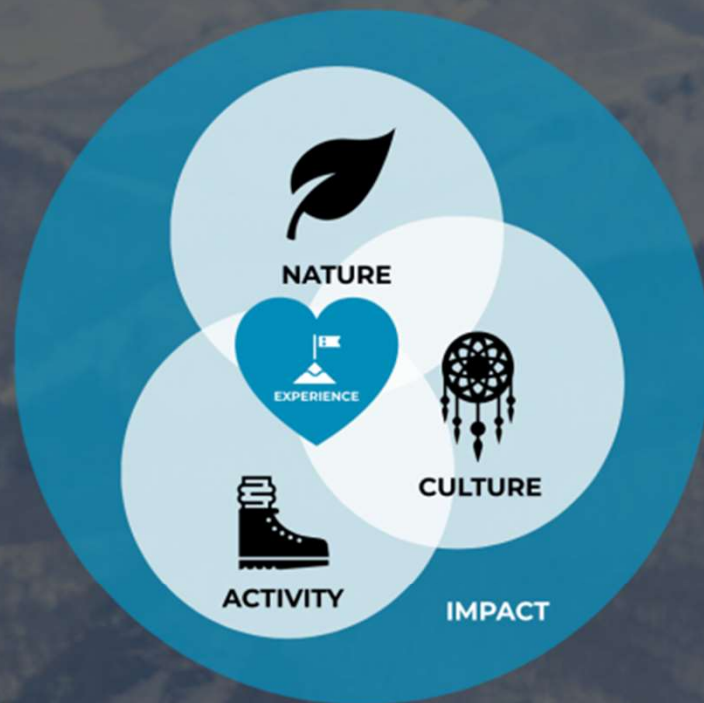
草原景観が特徴の阿蘇くじゅう国立公園、草原は地域の農的営みで形成・維持されてきた。



社寺仏閣も多く存在。

What is Adventure Travel?

COMPONENTS OF AN EFFECTIVE ADVENTURE TRIP



Source: North American Adventure Travelers: Seeking Personal Growth, New Destinations, and Immersive Culture (ATTA, East Carolina University, Outside magazine)

© ATTA / Rupert Shanks



「教化」の問い直し

○自然公園法の目的

優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図り、もって国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与する。

ここでいう「教化」とは、すぐれた自然の事物、風景から受ける教育感化をいうのである。必ずしも博物館、水族館、動物園等の人為的な施設によるもの、あるいは、風景地に存するこの動物、植物、地形、地質等によるもののみに限らず、大自然の景観に接して偉大な教訓を受け、あるいは、日常体験し得ない感銘を受け、これによって心身ともに爽快の気が横溢すること等をも指すものである。

『自然公園法の解説』

人はなぜ旅をするのか、SDGsという変革の時代の旅とは

Transformationする旅 教化：感動と学び

→人間は自然の一部、自然に支えられて暮らしがあること、感謝と祈り

→地域の営みからのサステナブルの学び

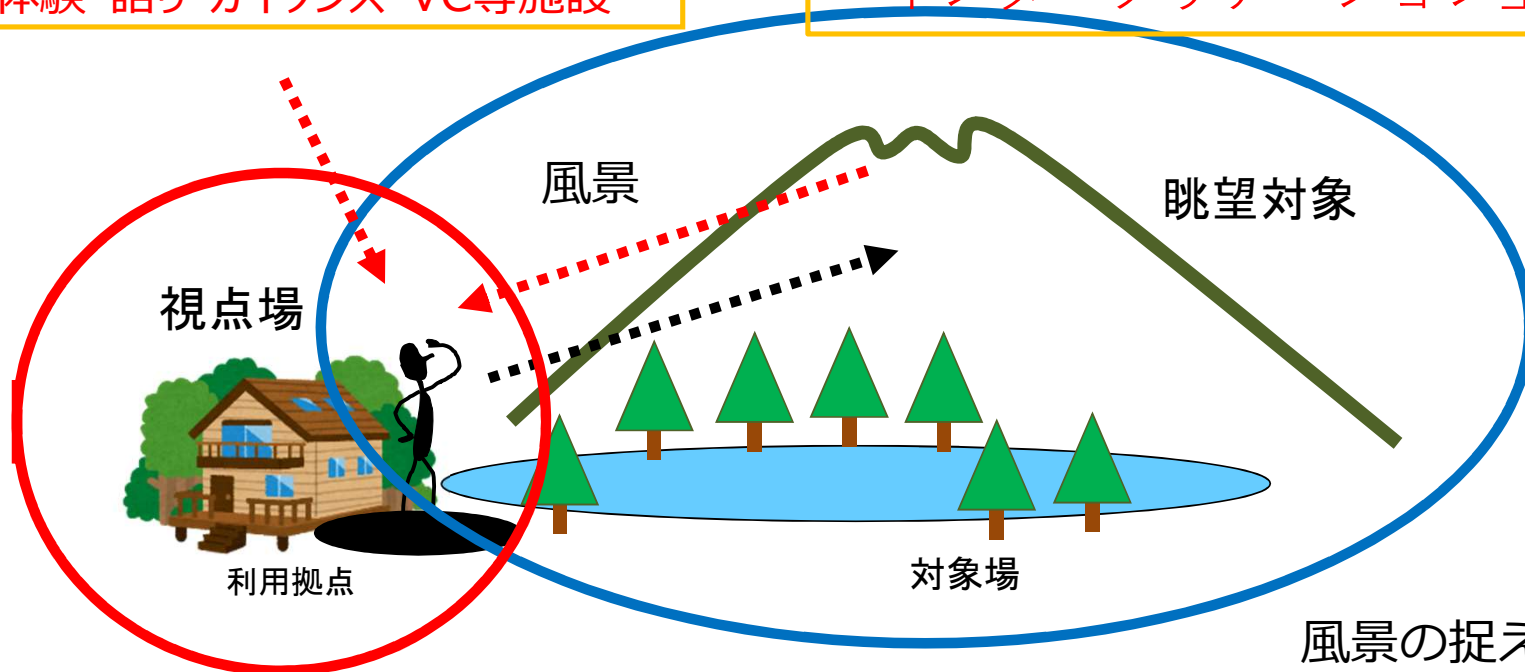


風景地の捉え方

情報（ストーリー・保全の仕組み）
体験・語り・ガイダンス・VC等施設



情報の提供と啓発の計画
= インタープリテーション全体計画



風景の捉え方（概念）

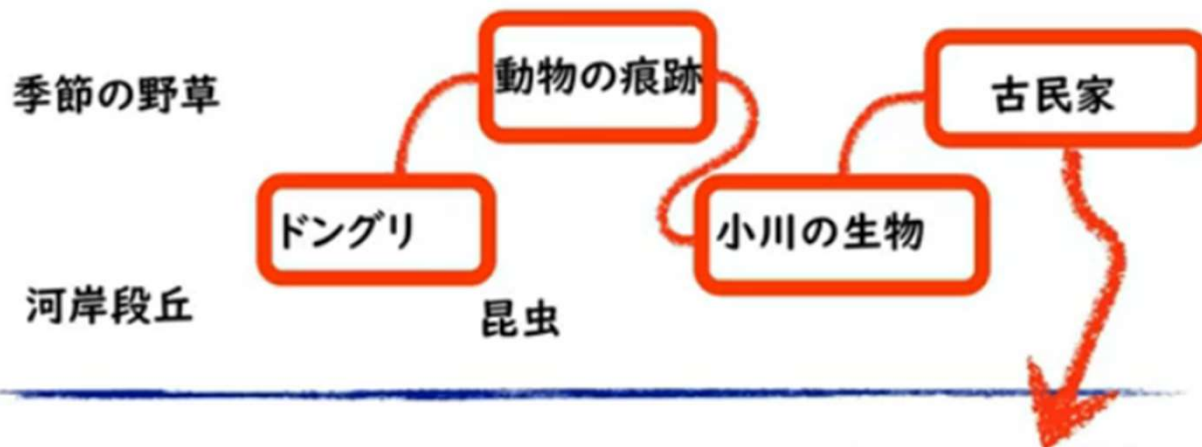
「風景の**利用**」と「風景の**保護**」

「**情報**」の付加による「**感動**」と「**学び**」
→ Transformation（意識変容、行動変容）

インタープリテーションとは

Tangible 触ることができるもの

事物・事象 モノやコト



トピック

生物多様性保全
共進化
自然の大切さ

テーマ=メッセージ

- 来訪者（参加者）に伝えたいメッセージ
- 参加者と共有したいストーリーを短く述べた文章

Intangible 触ることができないもの

意味、関係性、価値



インタープリテーション全体計画

- 「インタープリテーション」とは、国立公園や世界遺産、観光地などにおいて、地域の魅力や価値を、来訪者と共有するための**コミュニケーション**。
- 自然環境や風景、文化財などが持つ固有の価値やストーリーを来訪者と共有し、来訪者と地域資源との間に特別なつながりをつくるもの。
- アメリカの国立公園では国立公園ごとに**インタープリテーション全体計画**を策定

インタープリテーション全体計画の項目

- **Why(なぜ) : 使命・目的**
- **What (なにを) : 扱うモノやコト**
 - ・ 重要な資源 : 地域や施設が持っている、重要な資源のリスト
 - ・ テーマ : メッセージ
 - ・ 望まれる来訪者の経験 : ビジターにどのような経験や体験をしてほしいか
- **Who (だれに) : 利用者の類型と分析**
 - どのような利用者が来ているのか、あるいは来ていないのかを整理し、ターゲットを想定する
- **When Where (いつ、どこで)**
- **How (どうやって) : 具体的な媒体**
 - インタープリテーションのメディア (媒体) をリストアップする

上質なツーリズムの5つの要素



物語 (ストーリー)

◆ 自然の成り立ちと人の営みを伝える



ツアー化

◆ 宿泊と移動を組み合わせ
て商品化



インタプリテーション

◆ 感動と学びをサポート



体験コンテンツ

◆ 自然や文化を五感で体験

ルール

◆ 保護と利用の好循環を生む仕組み



国立公園のブランドプロミス (2023年6月決定)

- 国立公園のブランディングを強化するためブランドプロミスを定め、国立公園の管理運営に関わる関係者間の共通理解の下、全ての国立公園において、環境省と地域・関係者が一緒に、ブランドプロミスの実現に取り組む。

ブランドプロミス (国立公園が来訪者・地域に約束すること)



国立公園のブランドプロミスとブランディング活動

ブランドメッセージ

その自然には、物語がある。

提供価値

多様な自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる。

ブランドプロミス (国立公園が来訪者・地域に約束すること)

◎感動的な
自然風景



◎サステナビリティ
への共感



◎自然と人々の物語
を知るアクティビティ



◎感動体験を支える
施設とサービス



ブランディング活動 (ブランドプロミスを実現し続けるため、環境省が地域・関係者と一緒に取り組むこと)

- ①自然・生活・文化・歴史を把握し、物語（ストーリー）を明らかにし、保護と利用の方針を定め、行動計画を作成します。
- ②地域のコーディネーターとして、地域の多様な主体と一体となって公園管理や魅力の発信に取り組みます。

③自然の風景や野生生物、生態系を保護・再生します。

※二次的自然の維持管理も含む

④利用のルール、限定体験、利用者負担等に取り組み、公正な利用とその対価が保護に再投資される仕組みをつくります。

⑤脱炭素化や地産地消などに取り組み、持続可能な地域づくりに貢献します。

⑥物語(ストーリー)に沿った魅力的な自然体験コンテンツと体験コースをつくります。

※物語（ストーリー）とは、自然・暮らし・文化など地域の資源をつなぎ、その風景地の成り立ちや価値を伝えるもの

⑦集団施設地区・温泉街等の利用拠点の魅力向上を図ります。

⑧魅力的な利用施設の整備・管理を進めます。

⑨統一したメッセージ、デザインを活用し、国立公園に関する情報を広く発信し、理解拡大に努めます

民間提案を取り入れた国立公園の面的な魅力向上に向けて

- 2016年から、「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、国立公園満喫プロジェクトを推進。
- インバウンド再開を見据え、国立公園の利用の高付加価値化に向けて、2023年1月に有識者会議の下に新たに検討会を設置し、民間提案を取り入れた国立公園利用拠点の面的な魅力向上に取り組む。

- ・ 検討会における取組方針・スキーム等の検討（2023年1～6月）
- ・ 民間事業者・自治体ヒアリング

- ・ 取組方針を踏まえ、候補となる対象公園を抽出
- ・ サウンディング調査等により方向性・実現性を検討し、先端モデル地域を 1～2カ所 決定（2023年度未予定）



民間の発想を生かした国立公園の拠点の磨き上げ、官民による集中的な取り組み実施

国立公園の利用の高付加価値化に向けた方向性

- ◆国立公園の魅力的な自然環境を基盤とし、その土地の自然・文化・歴史・社会を踏まえた、本物の価値に基づく感動や学びの体験を提供し、利用者に自己の内面の変化を起こす。関係者が、持続可能で責任ある観光の姿勢を共有し、保護と利用の好循環を目指す。
- ◆ブランドプロミス「感動的な自然風景」「サステナビリティへの共感」「自然と人々の物語を知るアクティビティ」「感動体験を支える施設とサービス」実現。

①感動体験の場となる自然環境の保全が基本であることを関係者の共通認識とする。

- 全ての関係者が、環境・経済・社会に与える影響に配慮し責任を共有し、自然の保全と持続可能な利用に貢献する姿勢を持つ。



②多様なニーズに対応し、地域資源を適正に利用する。

- 国立公園のテーマ・ストーリーを踏まえた望ましい利用のあり方検討、利用のゾーニング、環境収容力に応じた利用制限等を実施

③利用者に感動体験を提供する仕組みづくりを行う。

- インタープリテーション全体計画（資源、伝えたい情報、望まれる体験等）で、ブランディングと「感動と学び」の空間デザイン推進。

④利用の対価を自然環境の保全に再投資する。

- 宿泊施設を中心とした地域連携で、利用の対価を周辺の自然保護や利用施設の整備・維持管理に再投資する仕組みを構築。

⑤自然再興、脱炭素、循環経済を実践する。

- 地域循環共生圏（ローカルSDGs）や自然を活用した解決策の具体的な実践、日本らしいサステナビリティに利用者が共感

⑥地域づくり・地域活性化に貢献する。

- 地域住民が国立公園の魅力を再認識することにより、協働型の地域づくりを実践。広域的ネットワークを構築。

⑦民間の知見を取り入れ、官民連携を推進する。

- 相利共生型の管理を行う地域協議会の枠組みを構築。リーダーやコーディネーターの存在や、環境省レンジャーの役割も重要。

各スケールにおける利用の高付加価値化の取組



スケール	利用者に提供する主な機能	主な関係者	必要な取組 (例)
国内公園 (公園計画の地域又は管理運営計画区単位を想定)	自然と人々の物語を知るアクティビティの提供	国立公園満喫プロジェクト地域協議会、環境省、自治体等	基本構想 (利用のゾーニング、インタープリテーション計画等)、ステップアッププログラム、自然体験活動促進計画等に基づき、利用のゾーニング・ストーリーにあったアクティビティを提供
利用拠点 (集団施設地区等の利用施設群)	感動体験を支える施設とサービス	地域の協働実施体制、環境省、自治体等	マスタープラン、利用拠点整備改善計画等でエリアの (再) 整備を実施
宿泊施設 (群)	利用者への宿泊体験提供・情報提供拠点	宿泊事業者、地域の協働実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル等の高付加価値な宿泊体験の提供 ・利用者への地域の自然歴史に関する情報提供 ・アクティビティ等に関する情報提供・予約等

先端モデル事業の基本的な方針

＜国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設＞

- ▶ 魅力的な自然を基盤として、その土地の文化や歴史なども踏まえた、感動と学びの滞在体験を提供する宿泊施設
- ▶ 持続可能な観光の観点から、自然環境や地域社会に配慮し責任をもった事業を行い、国立公園の保護と利用の好循環に貢献する姿勢を持つ宿泊施設



ヨセミ国立公園ウェブサイトより

- 環境省は、**国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設**を中心とした**利用拠点の面的魅力向上に関する先端的なモデル事業**を実施。
- モデル事業の初期段階から**民間提案を取り入れて**、適地の発掘・再発見、利用計画策定及び公園計画等への反映、具体的な事業実施。

① 国立公園スケール

- **満喫プロジェクト地域協議会**の役割が重要
- **利用のゾーニング、インタープリテーション計画**
- 事業者等が**自然体験アクティビティ**を提供

② 利用拠点スケール

- **リーダーやコーディネーター**等の役割が重要
- **マスタープラン**（ハード・ソフトの整備計画）
- 行政や事業者等が**施設とサービス**を提供

③ 宿泊施設スケール

- **宿泊事業者**の役割が重要
- **持続可能性・責任**の観点を持った事業
- **利用者への情報提供、保護への再投資**



上質なツーリズムのキーワード

- **自然を満喫する上質なツーリズム**

- 観光ではなく感動、教化の問い直し

- (物語、情報、インタープリテーション全体計画、利用のゾーニング)

- 高付加価値化

- (利用者の満足度の向上と地域の価値の向上、滞在環境の上質化)

- **保護と利用の好循環**

- 保護への再投資

- 限定体験

- **官民連携**

- パートナーシップの強化

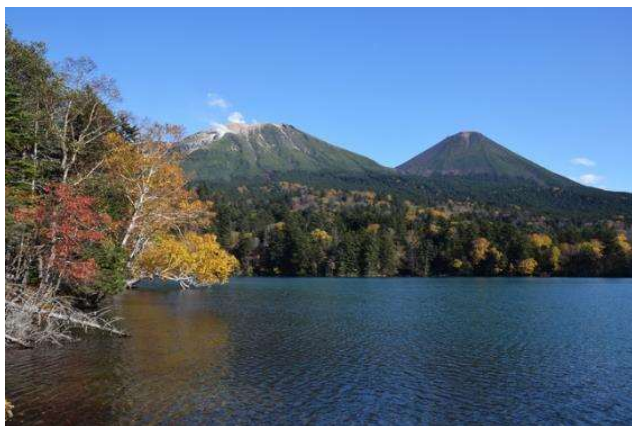
- (地域協議会、ステップアッププログラム、オフィシャルパートナー)

- 民間提案



90歳を迎える12国立公園

- 1934年3月16日：瀬戸内海国立公園、雲仙天草国立公園、霧島錦江湾国立公園
- 1934年12月4日：阿寒摩周国立公園、大雪山国立公園、日光国立公園、中部山岳国立公園、阿蘇くじゅう国立公園
- 1936年2月1日：十和田八幡平国立公園、富士箱根伊豆国立公園、吉野熊野国立公園、大山隠岐国立公園



令和5年度～7年度に関連行事を連続して実施